

『一心千里』

永田 隆一

走って見れば、
見えてくる



第60回

一昨年の日本の夏は40年ぶりの暑さと騒がれました。昨年の夏を1000年で一番の酷暑とマスコミが取り上げました。2014年は、過去1000年で北半球は一番温度が高いと学者が発表しました。今年の夏は大型の台風直撃も受けました。局地的豪雨が高知、広島、山口に甚大な爪痕を残しました。

もよろしくない状況に追い込まれることが増える傾向が顕著になってきたように思えます。ここは、

国内のスマートフォンメーカーは300社、テレビメーカーは1000社を数えます。間違いな

テレビメーカーは、オープンセルを調達し、COG (Chip on Glass)、バックライト、ガラス切

でも見やすいことと、黒いスクートのしわが見える、の2つしかない業界では言われておりま

は、企業が自ら考えなくてはなりません。事業環境の変化を自然災害のように捉えるようなエクスキューズを企業幹部がしてはなりません。「智者は、困惑せず、狼狽せず」と申します。企業の幹部は辛抱強さ、そして、どこまでも陽気に振る舞うことが大切です。

最近の自然環境の猛威と市場環境の変化は別物

基本に立ち返って「社会に還元してこそ企業」、また「人を俸せにした人が俸せになる」という、情緒的な方向性を背骨として努力をする。そして、結果は天に任せるくらいの気持ちでいたほうが、清々しく割り切っているものでありましょう。

く市場のルールが変わっています。マーケットダイナミズム(市場が自ら変わる)とするパワーを企業は見誤ってはなりません。結果として、ソニーのテレビ事業は10年連続で赤字を継続しております。

断といったモジュール工程を、パネルメーカーではなくテレビメーカーが自自行い始めたのであります。そして、スマートフォンでも同じことが起きています。

この企業は有機ELパネルの研究開発も標榜しておりますが、液晶パネルに比べてコストが10倍。メリットは、空の下でも見やすいことと、黒いスクートのしわが見える、の2つしかない業界では言われておりま

す。韓国の最大手パネルメーカーもすでに撤退をした製品です。有機ELテレビは、マーケットではロードマップからデリートされた技術候補であります。

ただし、考えられる対策は外部も含めて集めること。そして、一粒一粒まできちりと手を打ち、状況を自らが把握しているという、当たり前の前提が重要な必要条件であります。

自然環境の猛威に対して、人は過去の体験から学んで対策を探ることもできますが、結局は我慢しか方策がない場合が多いのが現実であります。

現在、4Kテレビの製造は中国が70%以上の市場占有率であります。中国背景は、1000社がひ

さて、10年から中国のテレビメーカーの調達方針が変化し始めました。背景は、1000社がひ

断といったモジュール工程を、パネルメーカーが自自行い始めたのであります。そして、スマートフォンでも同じことが起きています。

「冗談とフンドシはまたにしてください」。市場トレンドを見誤った企業幹部の責任であります。では、どうするか。簡単です。マーケットの1

状況が重要な必要条件であります。

さて一転、ビジネスの話であります。現状維持を旨としていると、どう

現在、4Kテレビの製造は中国が70%以上の市場占有率であります。中国背景は、1000社がひ

さて、10年から中国のテレビメーカーの調達方針が変化し始めました。背景は、1000社がひ

断といったモジュール工程を、パネルメーカーが自自行い始めたのであります。そして、スマートフォンでも同じことが起きています。

「冗談とフンドシはまたにしてください」。市場トレンドを見誤った企業幹部の責任であります。では、どうするか。簡単です。マーケットの1

状況が重要な必要条件であります。

(毎月連載)